

9月  
議会定例会

# 財政健全化判断比率の改善を報告 新教育長制度10月から始まる

9月議会定例会が、9月10日から18日までの7日間にわたり開催され、条例の制定や平成27年度各会計補正予算案などの19議案と報告2件の計21件が提案可決されたほか、平成26年度歳入歳出決算について認定されました。



## 行政報告

### ◇ 水稻の作柄状況・農業関係

7月25日の豪雨で、農業用施設に数箇所の被害が発生しましたので、今後受益者の意向を踏まえて、秋田県と連絡調整のうえ災害復旧対策を図っていきます。

8月20日現在における能代山本地域の水稻の生育状況は、 $m^2$ 当りの穂数は479本で平年と比較すると一割ほど多くなっています。また、1穂当りの着粒数は64・

9粒で平年比85%、 $m^2$ 当りの着粒数では3万1千粒と平年比92%で、穂数が多いものの、1穂着粒数がかなり少ないため、 $m^2$ 当り着粒数は少なくなっている状況です。刈取りは、今後の天候にもよりますが、中干し期から引き続き好天が続いたことから、あきたこまちは9月18日頃、めんこいな・ゆめおぼこは、9月24日頃から例年より早めになるものと思われるます。

稼動して4年目となったJAあきた白神カントリーエレベーターの町内農家の利用状況は、31戸の農家で、作付け面積の14・6%にあたる72・5haの申込みとなっています。

また、今年の米の概算払金額については、9月11日に開催されます全県JA組合長会議で決定される見込みですが、JAあきた白神独自の加算金も含めた金額は、検討のうえ9月28日に発表予定とのことです。今年、主食用米から飼料用米などへの作付け転換が大幅に進んだ結果、初めて生産調整の達成が確実となり、

需給が改善しているとの見方から、前年産に比べ概算金を高く設定する産地が増えそうだという観測がされています。

6年目を迎えたリンドウは、栽培面積が314aで、8月24日現在の出荷本数は287,710本と昨年同期より13,410本減少しており、販売額も12,338千円で、昨年同期と比較して1,487千円程下回っています。これは、出荷開始からの単価の低迷と、出荷調整があったことによるものです。今後は、秋彼岸に向けて単価の改善を期待して販売に力を入れていくこととなります。

次に、白神ラムの飼育状況についてですが、現在、子羊は102頭で、うち27頭を繁殖育成用として育て、繁殖用羊は前年度からの110頭と合わせて137頭となり、年次計画の93%となっています。今年度はラム肉として70頭、ホゲツト用として25頭の出荷を予定しており、ラム肉は5頭を県内外での賞味会用として予定しています。子羊は、繁殖用がまだ若年ということもあり、計画に比べて9割ほどの出生数となっています。

次に、ニホンザルによる農作物の被害防止についてですが、4月中旬から出没が確認され、随時追い払いに当たり鳥獣

被害対策実施隊による週末の巡回や檻・かかしの設置で、これまで9頭捕獲しており、昨年同期を1頭下回る状況となっています。今後も、巡回により射殺を含めた積極的な対策をお願いしています。ツキノワグマについても、5月中旬から出没が確認され、看板設置や広報により注意を促していますが、農作物被害や人家付近での出没は少なく、捕獲に至っていない状況です。なお、昨年町民がきのこ採りに出かけてクマと遭遇し、大ケガを負うという事故が発生していますので、今後、シーズンに向けてチラシ等により注意を喚起していきたいと思えます。

昨年度、秋田県事業により開設した林業専用道真土上岱線は、3月から路線を活用して間伐事業が実施されており、その搬出路が作業道として利用が図れることから、整備に係る機械借上料等を補正予算として計上するものです。

「木の駅プロジェクト」の進捗状況ですが、現在7名が出荷登録しており、去る8月26日から27日にかけて先進地視察を実施しました。9月5日に清水岱里山林敷地内に駅を開設し、材の収集を開始しています。事業の実施と併せてPRに努めていきたいと考えています。

### ◇ 豪雨による被害状況について

7月25日の豪雨についてですが、当町では、総雨量が191・0mm、1時間最大雨量41・0mm(アメダス)を記録し、藤琴川の指定観測地点(馬坂橋)において25日の午前9時40分に2m92cmの最高水位を観測しました。